

○ 林田佳菜子 金子留美 岩崎和子 兼光照代 前田さゆり  
石原美樹 金光美幸 安田透 池田潔

### 背景・目的

当院では、シャント作製術の他に長期留置カテーテル挿入術やカテーテル診察も行っている。長期留置カテーテル挿入術と管理における現状を報告する。

### 期間・対象

H22.9/1～H27.12/31 カテーテル挿入歴のある患者・カテーテル診察外来受診患者70名

### 結果・考察

図1

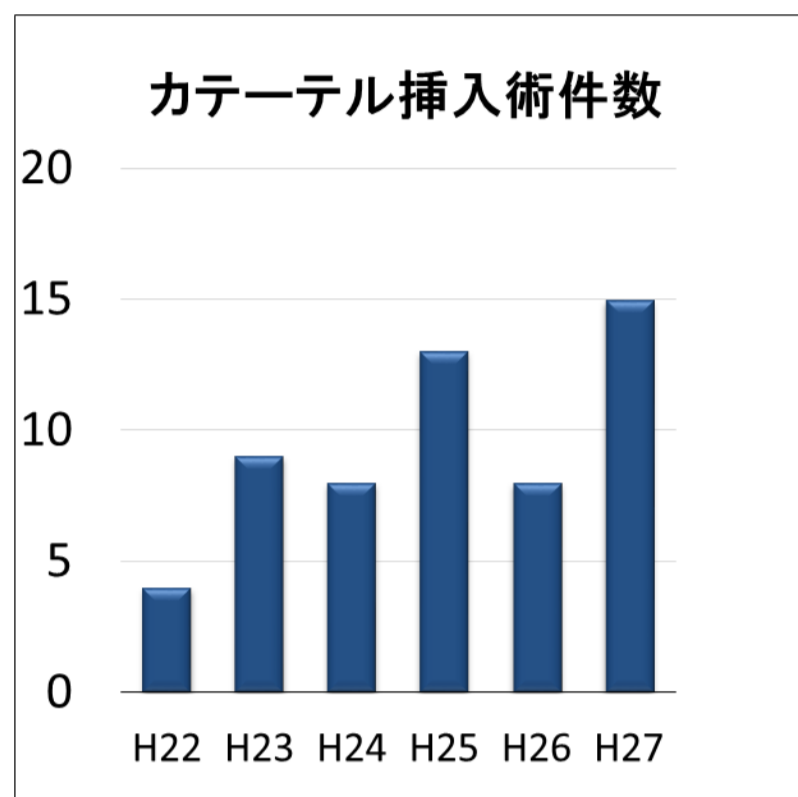


図2

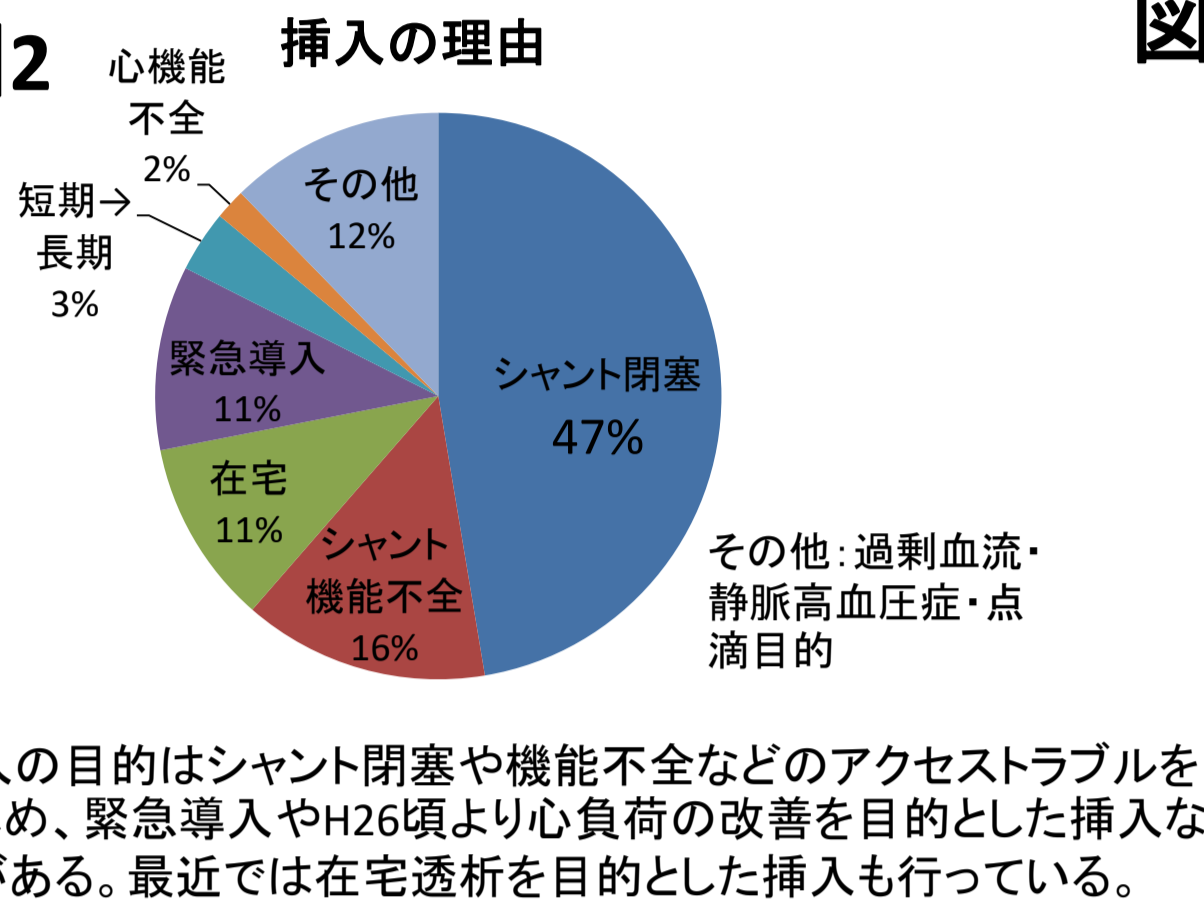
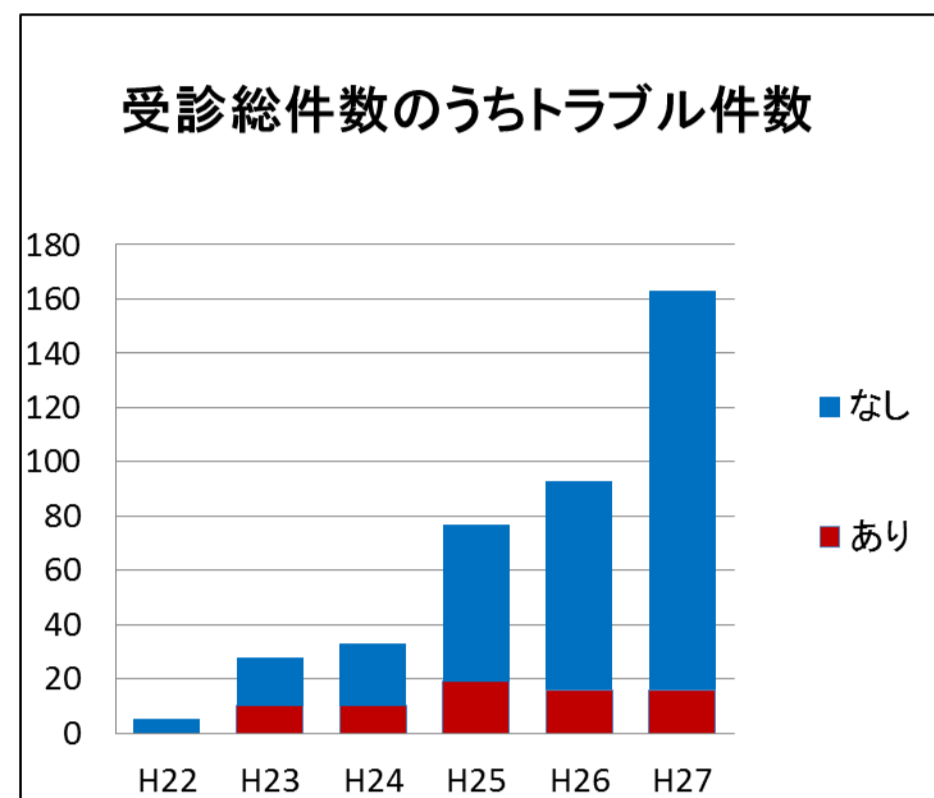
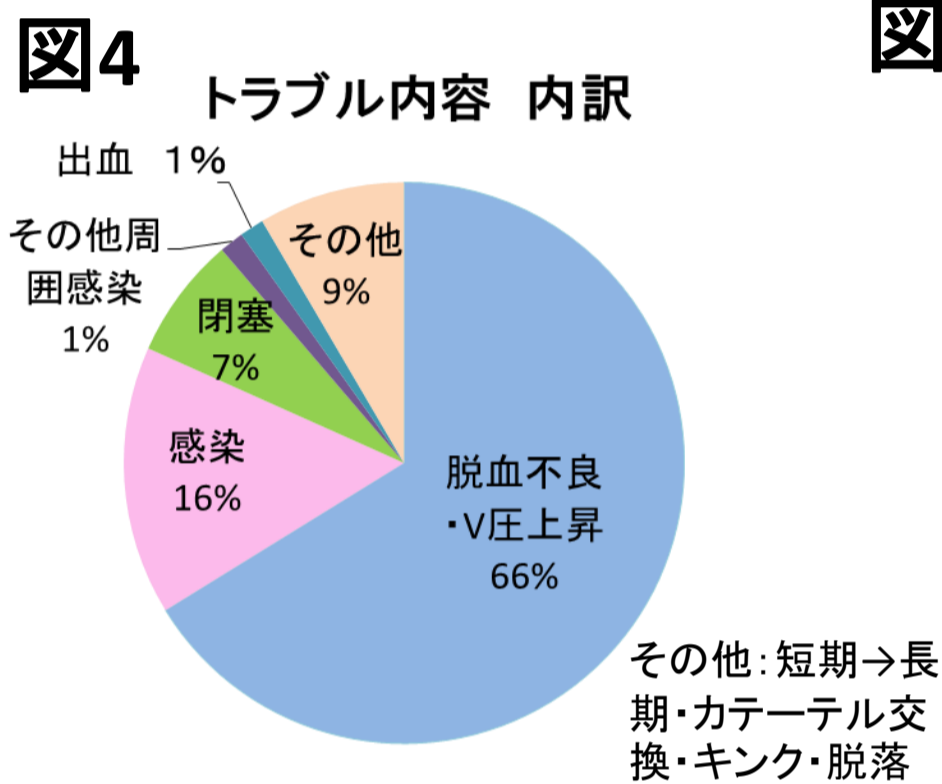


図3



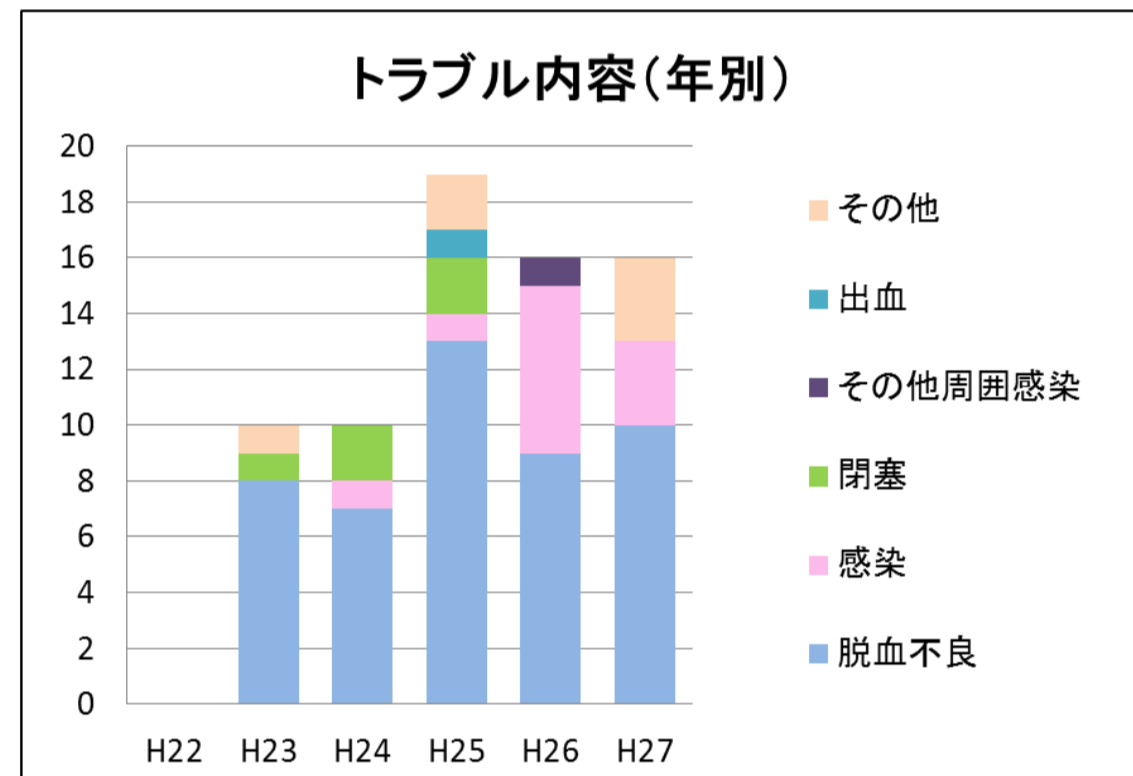
受診総件数は年々増加しているが、トラブルでの受診割合は減少している。

図4



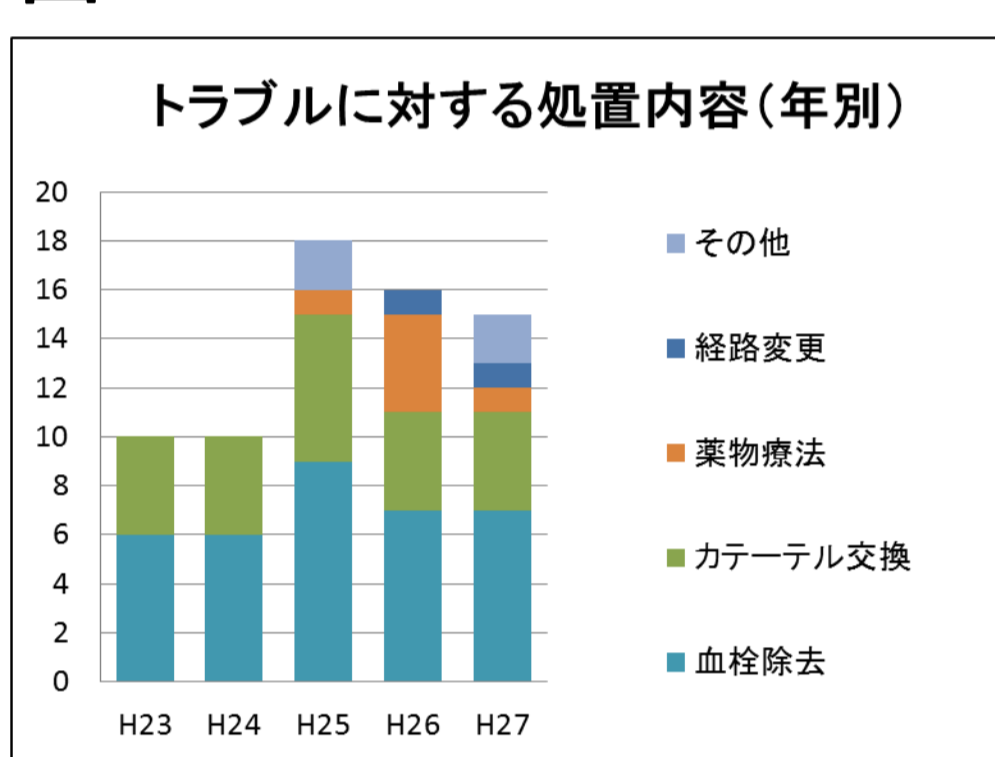
カテーテルのトラブルとして脱血不良が半数以上を占め、次に感染、閉塞と続く。

図5



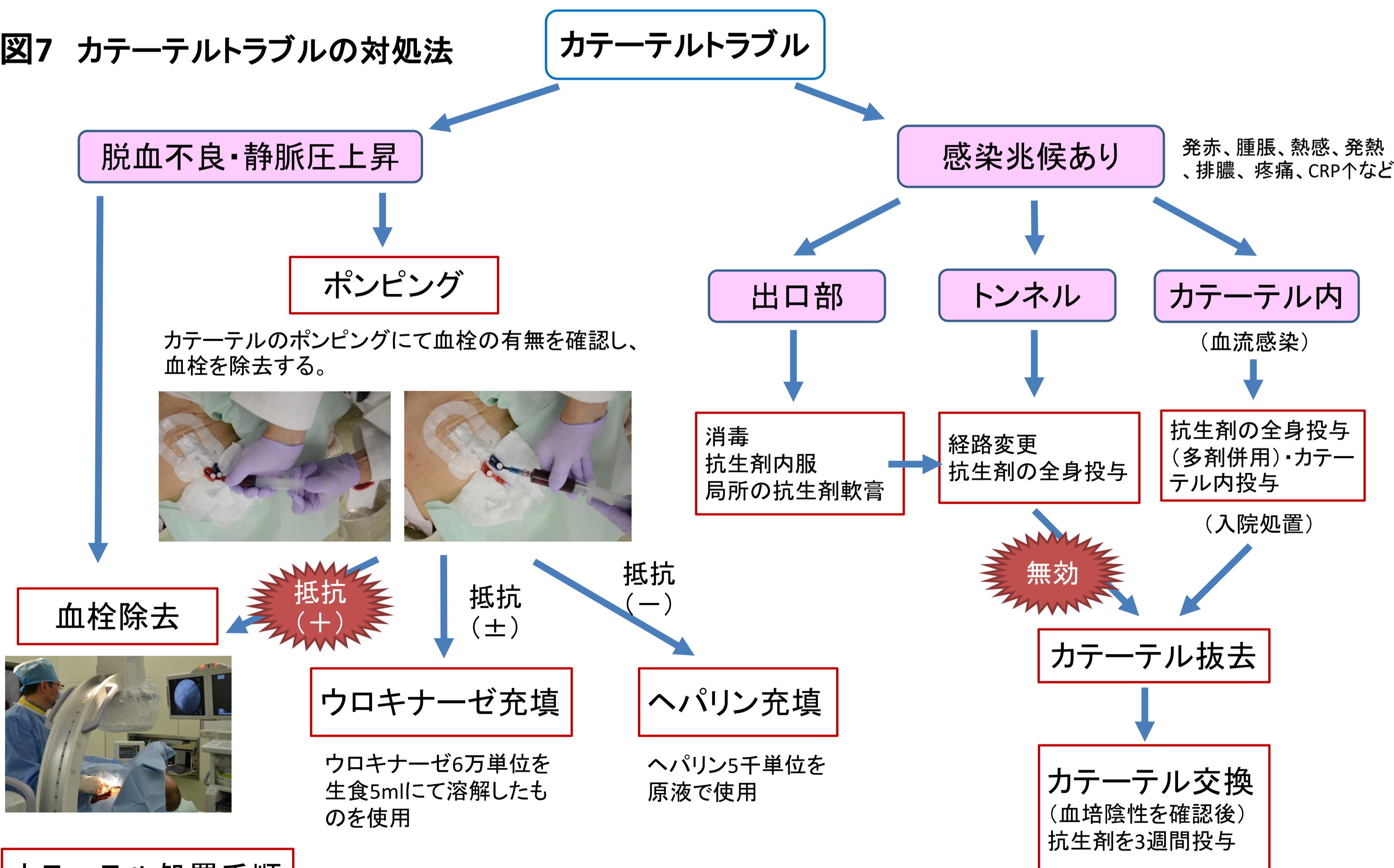
トラブル内容を年別になると、閉塞がH26以降は0件となっている。静脈圧上昇や脱血不良など見られた場合に早期に対処したことで、閉塞は防ぐことができた。また感染に対してはH26頃より管理マニュアルの確立・他院への情報提供を行っていることにより、H27には減少した。

図6

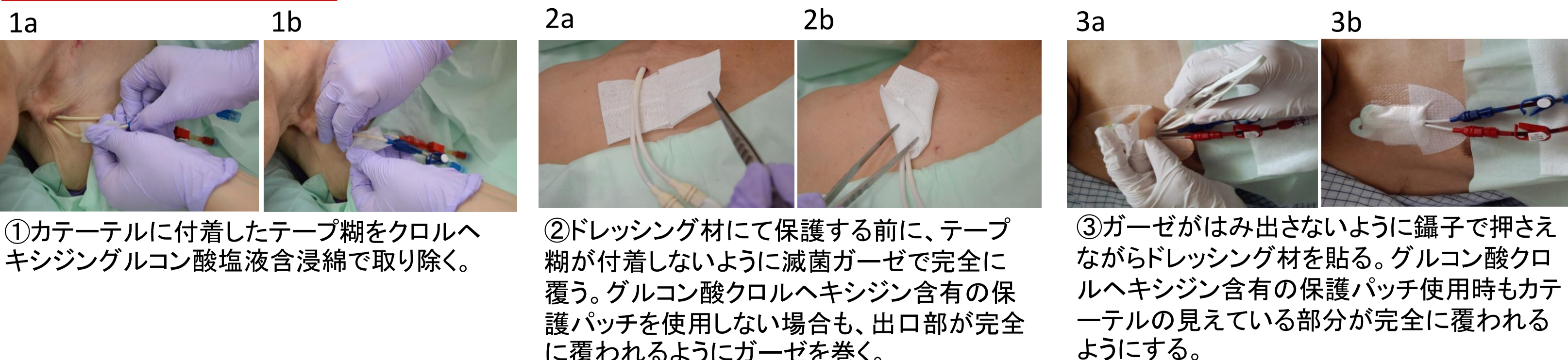


静脈圧上昇・脱血不良に対しては血栓除去術を施行している。H25頃まではトンネル感染に対してもカテーテル交換を行っていたが、H26頃より経路変更術で対応するようになった。

図7 カテーテルトラブルの対処法



カテーテル処置手順



### まとめ

- カテーテル診察を定期的に行うことでトラブル予防やトラブルに対し早期に対応できている。
- 管理方法を確立し情報提供したことで、トラブルが予防できている。